

オノマトペ的表現を通して見る障害のある子どもと先生

～障害児の教育的支援の手がかりを再発見する試みとして～

堅苦しくないリラックスした雰囲気の中で、オノマトペを切り口に、教師や児童がいる暮らしの中のコミュニケーションを垣間見て、そこから新たな発想を沸き立たせる。そして、そこから障害児の教育的支援を捉え直すことができる、そんな会を催したいと思い企画しました。気付いたところを繋ぎ合わせてハッとひらめくような新たな発見をしてみませんか。

開催日時： 2011 年（平成 23 年）2 月 19 日（土）2：00～5：00

開催場所： 兵庫教育大学神戸サテライト（神戸情報文化ビル 3 階） 第 4 講義室

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1 丁目 5-7 電話 078-361-5023 （サテライト事務室）

開催者：オノマトペ de 特別支援

発起人：有働眞理子（兵庫教育大学 社会・言語教育学系）

高野美由紀（兵庫教育大学 臨床・健康教育学系）

後援：兵庫教育大学

2:00-2:10 趣旨説明（高野）

2:10-2:30 ミニ・レクチャー「オノマトペとは何か」（有働）

オノマトペについての、言語学的な知見を紹介します。

2:30-2:50 教師のオノマトペ（高野）

知的障害対象の特別支援学校で聞こえてきたオノマトペとは、どのようなもので、どのように使われていたのでしょうか。

3:00-3:30 オノマトペの身体性（有働）

実際に使われているオノマトペを見てみると、紙上では気付かない面白い現象に出会います。オノマトペの持つ音の特徴と、意味、そして発話する先生の動き／ジェスチャーがうまくリンクしていることが見えてきます。

3:30-4:00 オノマトペ的表現を含んだやりとり（高野）

オノマトペ的表現を用いた先生と子ども達のやりとりをよく見ると、先生が積極的に子どもとコミュニケーションしようとする姿、先生の働きかけに応じる子どものかすかな動き、授業を通して子どもに伝えようとする思いなどが浮かび上がってくるようです。

～～～休憩（10 分）～～～

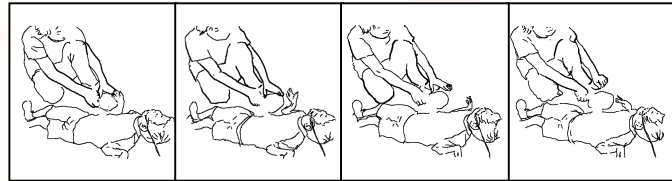
4:10-4:50 意見交換（司会：高野）

コメンテーター 1：郷間英世（京都教育大学 附属特別支援学校校長）

コメンテーター 2：竹山瞳ほか（大阪府立守口支援学校）

その他フロアを交えて意見交換

4:50-5:00 終わりの挨拶（有働）



交通機関

電車で

JR 大阪駅 → JR 神戸駅 約 23 分（新快速）

JR 姫路駅 → JR 神戸駅 約 35 分（新快速）

新神戸駅 → 市営地下鉄三宮駅 → 徒歩 → JR 三宮駅 → JR 神戸駅 → 徒歩 約 8 分

市営地下鉄ハーバーランド駅 → 徒歩 約 8 分

阪急・阪神高速神戸駅 → 徒歩 約 13 分

車で

大阪方面から

阪神高速「京橋出口」→ 国道 2 号線西へ → 弁天町交差点または神戸駅南交差点を左折

明石・姫路方面から

阪神高速「柳原出口」→ 国道 2 号線東へ → 神戸駅南交差点を右折

屋外駐車場（煉瓦倉庫駐車場）営業時間：24 時間

駐車料金：250 円/30 分（土日祝 AM 9:00～PM 11:00）

地下駐車場（神戸情報文化ビル地下駐車場）営業時間：AM 8:00～AM 2:30

駐車料金：250 円/30 分